

【試験結果速報】

株式会社ガイア様

2020年5月25日

一般財団法人 北里環境科学センター

1. 試験名: ウイルス不活化効果試験

2. 試験内容: アルカリ電解水による A 型インフルエンザウイルスの不活化効果を調べた。

3. 試験品: ガイアウォーター(アルカリ電解水)pH13.2 (測定値: 13.2)

ガイアウォーター(アルカリ電解水)pH12.7 (測定値: 12.7)

(当センターでの pH 測定は、HORIBA ハンディ pH メータ D-52、pH 電極 9615S-10D 使用)

4. 試験方法概要:

<供試ウイルス>

A 型インフルエンザウイルス(Influenza A virus, A/PR/8/34, ATCC VR-1469)

<ウイルス不活化試験>

- ① 試験品 0.9 mL にウイルス液 0.1mLを混合し、所定時間作用させた。
- ② 作用後、混合液から 0.1mL採取し、0.1M HEPES緩衝液(pH7.0)で 10倍に希釈し、作用停止させた。
- ③ ②の液を感染価測定用試料の原液としてTCID50法を測定した。

5. 試験結果

試験品作用後の感染価の変化

試験品	作用時間			
	0(初期)	30 秒間	1 分間	2 分間
対照(ブランク)	14,000,000	/	/	24,000,000
ガイアウォーター(pH12.7)	/	13	13	13
ガイアウォーター(pH13.2)	/	14	14	/

単位: TCID50/mL

検出限界値: 13 TCID50/mL

初期感染価からの感染価対数減少値

試験品	LRV(感染価対数減少値)		
	30 秒後	1 分後	2 分後
対照(ブランク)	/	/	-0.2
ガイアウォーター(pH12.7)	> 6.0	> 6.0	> 6.0
ガイアウォーター(pH13.2)	6.0	6.0	/

LRV: Log_{10} (初期感染価/各時間作用後の感染価)

以上